

下都賀地区生涯学習研究会機関紙
ねっとわーく
Network
第 58 号
令和 3 年 10 月 発行

コロナ禍ではありますが、本年度最初にお届けする「ネットワーク第 58 号」は、海老沼会長のごあいさつ、小山市立穂積小学校の学校・家庭・地域の連携協力に関する取組の事例、下野市立古山小学校の木野内先生へとつながりました「となりの社教主事」を掲載することができました。また、今夏、茨城大学にて社会教育主事講習を修了しました「ニューフェイス」の 4 名の皆さんをご紹介します。

新たな仲間をお迎えし、さらに下都賀地区の生涯学習を振興し、社会教育を推進していきたいと考えております。これからも本会にお力添えをくださいますようお願いいたします。



会長から会員へ向けて

明けない夜はありません



下都賀地区生涯学習研究会 会長
小山市立小山中学校 校長 海老沼 功

終わりの見えない新型コロナウイルスとの闘いの中、令和3年度がスタートしました。感染拡大の大きな波が繰り返し訪れ、会員の皆様もそれぞれのお立場で対応にご苦労されていることかと思ひます。

さて、私こと海老沼功は、令和3年度の下地区生涯学習研究会長を仰せつかりました。生涯学習に造詣の深い皆様にとって力不足を自認する我が身ではございますが、一年間どうぞよろしく申し上げます。

冒頭にも申し上げましたとおり、新型コロナウイルスの猛威は留まることを知らない状況となっております。様々なお立場の人間が心や具体的な行動を通して交流し合い、より豊かな社会生活を構築することが生涯学習の大きな目的の一つでもあります。所期のねらいを達成できない状況に忸怩たる思いを募らせている現状であることご推察いたします。私の勤務校も、本校を誇りに思う多くの方々を支えられこれまで走り続けてきましたが、現状では、給水所で長時間脚を止めてしまっているかのようです。このままリタイアという選択肢もあるでしょうが、生涯学習はゴールゲートがいつでもオープンなフリーレース。己の脚と相談しながら、今できる最善策を模索し、それぞれのペースで前進していきましょう。



2019年9月
よこてシティハーフマラソン

シリーズ「事例から学ぶ 58」

「**田んぼの学校 おー米 (My) スクール**」穂積小

小山市立穂積小学校 小堀 啓子

穂積小学校で、『田んぼの学校』がスタートしたのは、13 年前です。校庭南側の水田をお借りし、田んぼの学校実行委員会の方々の御尽力のもと、全校生で田植えや稲刈りを行います。周囲に田んぼが広がる穂積小ですが、この時初めて田んぼに入る児童も少なくありません。1 年生と赴任したばかりの教職員は、転ばないよう必死です。頑張った田植えの後は、さなぶり給食の時間です。田植えが無事終わったことを喜び、今後の稲の生育と豊かな実りを願い、実行委員

の皆さんと楽しく会話をしながら、いただきます。この日を心待ちにしている穂積小の子どもたち…「毎年田んぼの学校が体験できることは、とても幸せなことだと思います。今まで受け継がれてきた田植えの伝統を下級生につないでいきたいです。」の児童の言葉には、田んぼの学校への思いが詰まっています。近年はコロナ禍による活動自粛の影響で、全校生での活動は中止となりました。本来の形での実施が待ち遠しいです。

